

平成24年9月14日

平成24年度病害虫発生予報第6号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
普通期水稻	紋枯病 トビイロウンカ (注意報第3号)	並 多	並 多
大豆	ハスモンヨトウ 吸実性カメムシ類	並 並	並 並
いちご (育苗床)	うどんこ病 炭疽病 (<i>G.cingulata</i>) ハダニ類 ハスモンヨトウ	並 やや多 やや多 やや少	並 やや多 やや多 やや少
アスパラガス	アザミウマ類	やや少	やや少
かんきつ	青かび病、緑かび病 ミカンハダニ	- やや多	やや多 やや多
果樹共通	カメムシ類 (防除情報第13号参照)	並	並
茶	炭疽病 カンザワハダニ チャノキイロアザミウマ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ チャノミドリヒメヨコバイ クワシロカイガラムシ	やや多 やや少 やや多 並 やや少 やや多 並	やや多 やや少 やや多 並 やや少 やや多 並

【発生予報】 本文の()内は平年値

普通期水稻

1. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査(90筆)の結果、発病株率は3.8%(2.9%)、発生圃場率は32.2%(43.5%)であった。

イ 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発病株率は31.0%(31.6%)であった。

2. トビイロウンカ

平成24年9月14日付け病害虫発生予察注意報第3号による。

大豆

1. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査（15筆）の結果、寄生株率は7.8%（10.5%）、株当たり虫数は0.4頭（0.6頭）、白変葉発生圃場率は53.3%（48.8%）であった。

イ 9月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、寄生株率は22.0%（18.8%）であった。

ウ フェロモントラップ（諫早市）の誘殺量は、9月1半旬に増加したが、その後やや少なく推移している（図）。

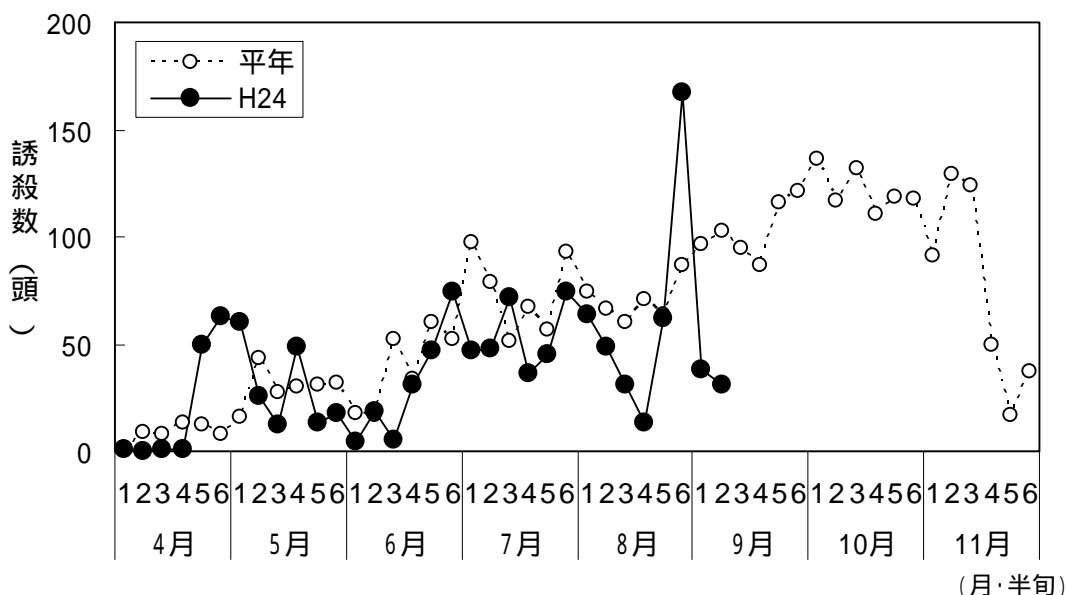


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越町)
平年:H14~23年の平均値(最大・最小値除く)

2. 吸実性カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査（15筆）の結果、寄生株率は0.9%（0.5%）、株当たり虫数は0.0頭（0.0頭）、発生圃場率は20.0%（15.0%）であった。

イ 9月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、寄生株率は12.0%（3.0%）、株当たり虫数は0.2頭（0.0頭）であった。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査（31筆）の結果、発病株率は0.01%（0.07%）、発生圃場率は3.2%（1.9%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤散布は、薬液が葉裏、葉柄に十分かかるように行う。

イ 除去した茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。

ウ 薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

エ 定植後は、定期的に薬剤の予防散布を行う。

2. 炭疽病 (*G.cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査(31筆)の結果、発病株率は1.9%(0.4%)、発生圃場率は16.1%(13.4%)であり、一部多発圃場が見られた。

イ 病害虫防除員からの報告によると、並~やや少の発生である。

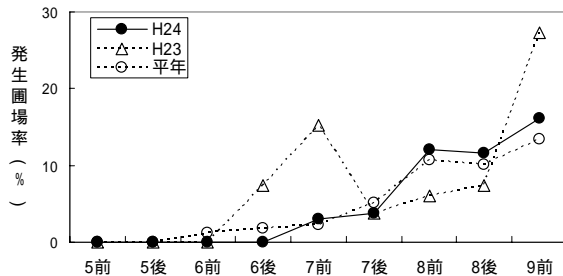


図1 炭そ病(*G.cingulata*) 発生圃場率の推移

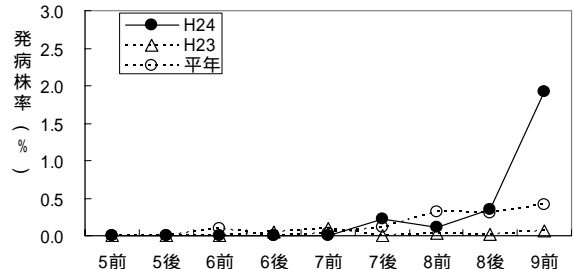


図2 炭そ病(*G.cingulata*) 発病株率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病した株および発病のおそれがある株は速やかに処分するとともに、定植前の選別を徹底し、疑わしい株は定植しない。

イ 本圃で発病を認めた場合は速やかに抜き取り圃場外へ持ち出す。除去した発病株や茎葉は伝染源となるので圃場内やその周辺に放置しない。

ウ 強雨や台風の前後など発生のおそれがあるときは薬剤散布を徹底する。

3. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(31筆)の結果、寄生株率は2.7%(2.8%)、発生圃場率は38.7%(23.3%)であった。

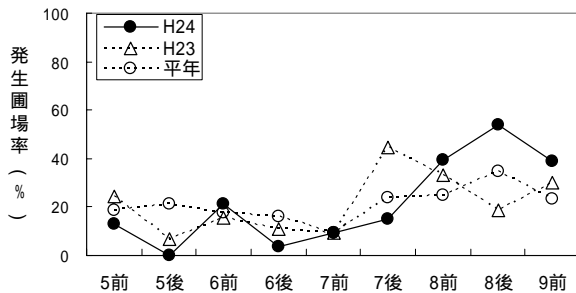


図1 ハダニ類 発生圃場率の推移

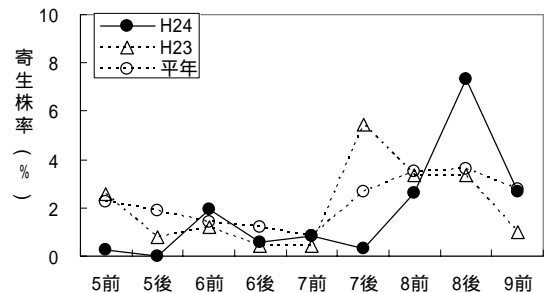


図2 ハダニ類 寄生株率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本圃に持ち込まないように定植前の防除を徹底する。

イ 薬剤散布はかけむらがないよう、葉裏まで十分かかるよう丁寧に行う。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤の連用はしない。

エ 本圃で天敵放飼を予定している場合は、薬剤によっては長期間影響を与えるので、使用時期に注意する。

4. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査(31筆)の結果、食害株率は0.7%(3.8%)、発

生圃場率は25.8% (44.1%)であった。
 イ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、9月1半旬に増加したが、その後やや少なくて推移している(大豆の項参照)。

アスパラガス

1. アザミウマ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(9筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所)は3.3頭(過去5カ年平均8.4頭)、発生圃場率は55.6%であった(過去5カ年平均61.4%)。

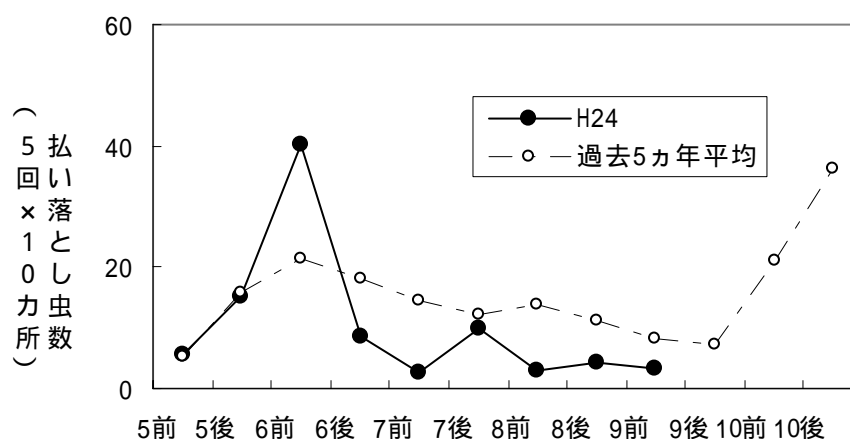


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移(巡回調査)
 払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

かんきつ

1. 青かび病、緑かび病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

向こう1か月間の降水量は平年より多い見込みであり、本病の発生に好適である。

2. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は12.0% (7.1%)、発生圃場率は50.0% (49.0%)であった。

果樹共通

1. カメムシ類

平成24年9月3日付け病害虫発生予察防除情報第13号を参照。

なお、以後の発生は以下のとおりである。

ア 予察灯における誘殺数は、地点による差があり南島原市で平年より多く、佐世保市で平年並、諫早市及び五島市で平年よりやや少なく推移している(図)。

イ フェロモントラップにおける誘殺数は、平年並で推移している(図)。

ウ 病害虫防除員の報告によると、一部のかんきつ園には飛来が認められている。

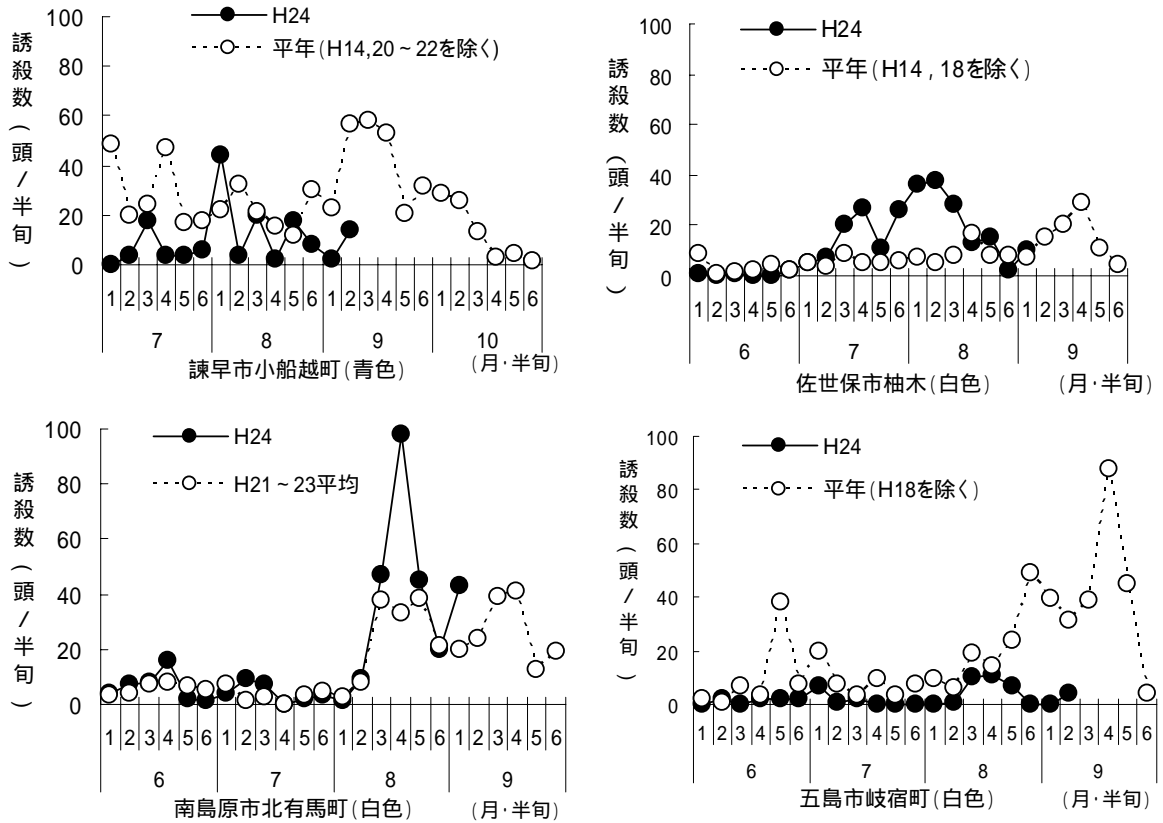


図 予察灯による果樹カメムシ類誘殺数の推移

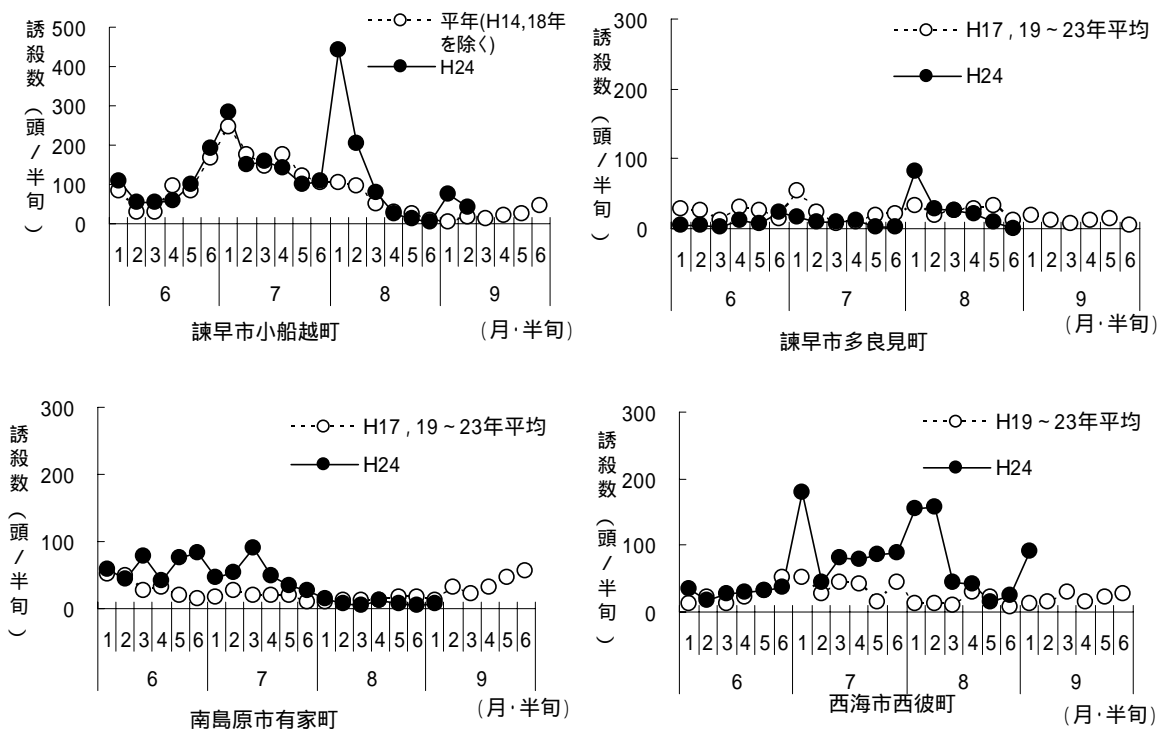


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(黄色コガネコール)

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡あたり発病葉数は11.9枚(5.1枚)、発生圃場率は65.0%(48.8%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤耐性菌が発生しやすいので、同一薬剤を連用しない。

2. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生葉率は0.4%(0.9%)、発生圃場率は5.0%(20.0%)であった。

3. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は23.2頭(16.1頭)、発生圃場率は100.0%(71.6%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

4. チャノコカクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり巻葉数は0.1枚(0.3枚)、発生圃場率は5.0%(17.5%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は平年並で推移している(図)。

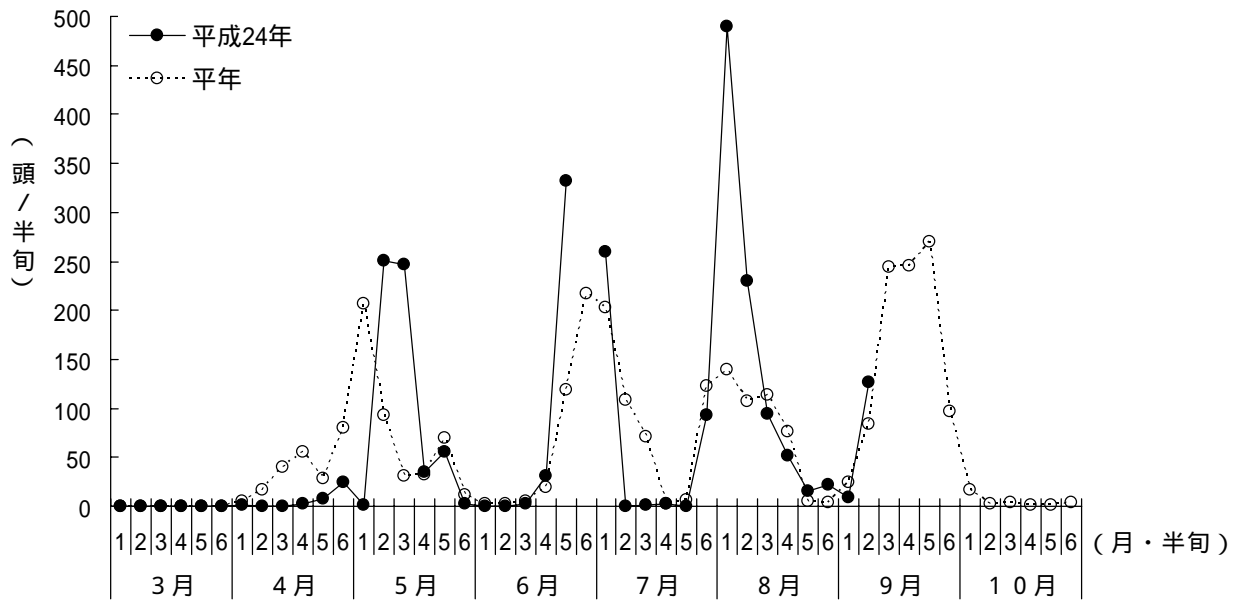


図 茶ノコカクモンハマキの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）
注：6月6半旬は欠測

5. 茶ノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

- ア 9月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり巻葉数は0.1枚(1.0枚)、発生圃場率は10.0%(31.9%)であった。
- イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は、やや少なくて推移している(図)。

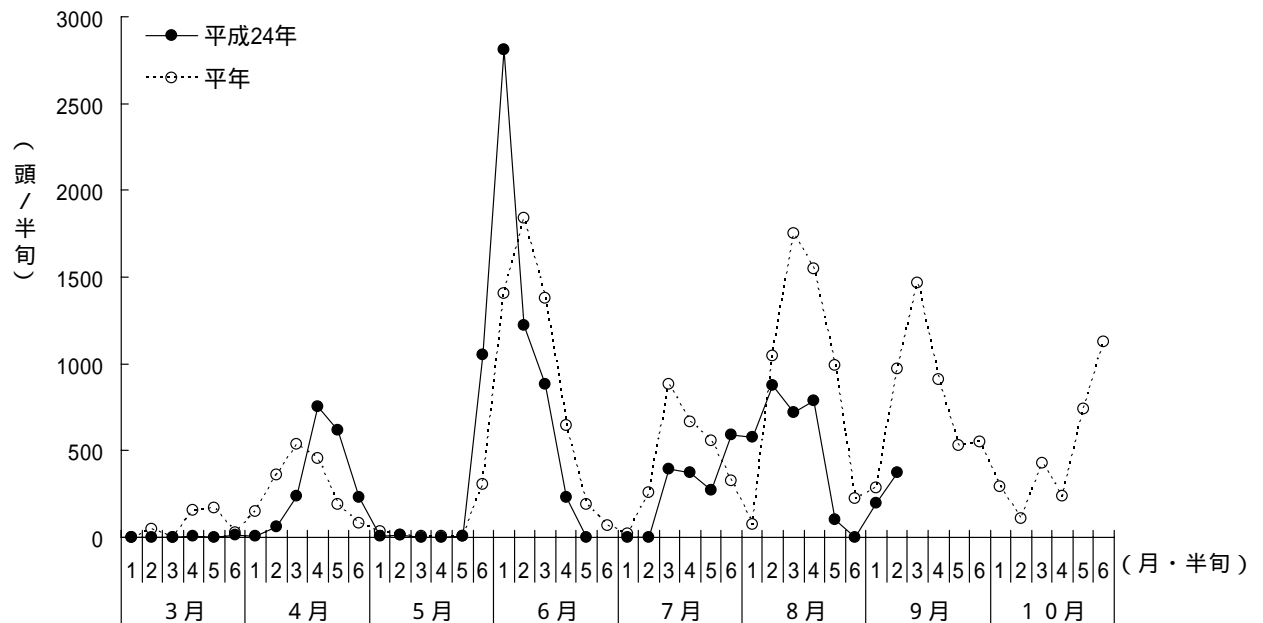


図 茶ノホソガの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）
注：6月6半旬は欠測

6. 茶ノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は2.3頭(1.4頭)、発生圃場率は75.0%(47.5%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は4.5%(4.5%)、発生圃場率は35.0%(26.3%)であった。

【参考】

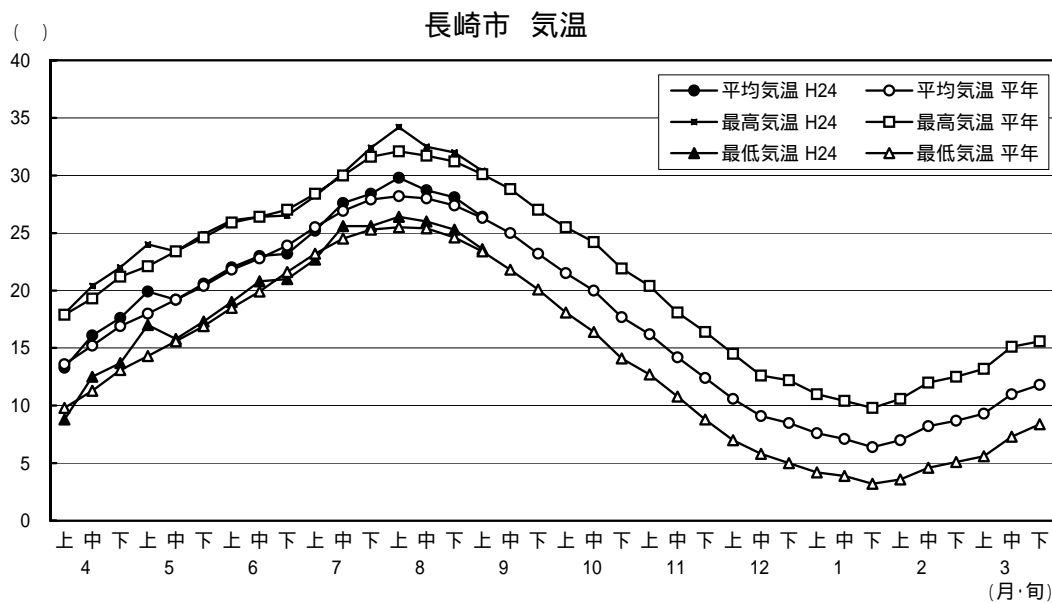
気象 (平成24年9月14日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	30	40	30
降水量	20	40	40
日照時間	40	30	30

予報対象地域：九州北部地域

平成24年度の気象経過 (長崎海洋気象台)



病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病虫害防除所 TEL：0957-26-0027